

「学ぶ力」	
実態	成果 課題
	<p>◇「自分の思っていることを人に伝えること」が課題となっていたが、肯定的回答が2ポイント向上し、表現への抵抗感が薄れてきている。</p> <p>◇「人の意見を参考にしてもう一度考えてみる」「学習で困っている友達に声をかけたり、一緒に考えようとしていたりしている」と児童評価で回答した児童が83%に増えるなど、他者意識の向上と相互承認の土台が構築されつつある。</p>
	<p>◇基礎的・基本的な技能を確実に定着させつつ、学びの主導権を児童に委ねる「学びのコントローラーをもたせる」授業の工夫が必要である。</p> <p>◇「失敗を恐れて挑戦しない」傾向が見られ、自己有用感の肯定的回答が73%と低い水準にある。自己決定の場や失敗から学べる場を増やし本物の経験へとつなげていく。</p> <p>◇全児童がより主体的に活動できるように、今よりも活動が楽しみになる環境づくりに取り組んでいく。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇児童アンケートでは、自己肯定感は比較的高いが「自分が必要とされている」と感じられない児童が多いことが分かる。自分が誰かの役に立っている実感できるよう、年間を通した縦割り活動やブロックでの行事の取組などを昨年度以上に充実させていく。また、児童同士の関わりに任せるだけでなく、教職員も児童一人ひとりが、どんな時でもかけがえのない存在であることを全体で、または個別で伝えていく。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

学びを自分事として捉え、主体的・対話的に取り組む力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究主題「今より授業を楽しみにする子どもの育成」に基づき、子どもの「できた」の見取りが位置付けているかを視点に、全校研究やブロック研究を行う。</p> <p>(2) 時間配分や内容の厳選、教材の工夫など、子どもたちの環境を工夫し、学び方を含めた子どもが主体的に選択・活動（思考・判断・行動）できる場を意図的に設定する。</p> <p>(3) パートナー校の授業実践など、校外の実践を校内に周知する場を積極的設定し、子どもが「できた」を次につなげる手立て・友達と学び合う集団づくりを、全教員が共有する。</p>	<p>①目的をはっきりさせた委員会活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年の委員会活動（目的の明確化）を起点とし、それを全学級の「学級生活の課題解決（話し合い活動）」へ波及させる。係活動、当番活動にも生かす。 ・「学級活動部」を中心に、児童一人一人が「自分たちの学級・学校は自分たちの手で良くしていける」という実感をもてるよう、児童の思いや身近な課題（自校の課題）を起点とした話し合いの場を、日常の朝の会・帰りの会・学級活動の時間に意図的に位置付ける。 <p>②さっぽろっ子サミットと関連を図った活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サミットのテーマと各学年（特に高学年）の学習活動を関連付け、「もし自分だったらどうするか」という意識を育てる実践を行う。
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p>		
<p>◇主に(2)について、Canvaの共同編集機能を活用し、「友達と学び合う」場面で効果的に活用する。また、一人一人の習得状況に応じた個別最適な学び（ヒントや発展課題の配信）を保証するツールとしてICTを位置付ける。</p> <p>◇主に(3)について、協力して授業づくりをするために、オンラインミーティングの機会を作り、全教員が日常的に「授業の引き出し」をアップデートできる環境を整える。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

